

R6年8月放送分
「防衛省における環境対策について」
(日本の防衛Q & A)
(自衛隊百科)

R6.7.24 収録

【パーソナリティー】

本日は、防衛省における環境対策をテーマに、東北防衛局から職員2名の方にお越しいただきました。よろしくお願いいたします。

【職員2名】

よろしくお願いいたします。

【パーソナリティー】

では、はじめに自己紹介をお願いします。

【尾花】

はい、環境対策室長をしております尾花です。出身は大阪です。今日は関西弁を出さないように気を付けますので、よろしくお願いいたします。

【兵藤】

同じく環境対策室の兵藤です。今年4月に採用されました。出身は宮城県で、仙台っ子です。よろしくお願いいたします。

【パーソナリティー】

こちらこそ、よろしくお願いいたします。それでは、今回のテーマの「防衛省における環境対策について」お話をお願いします。

【尾花】

はい。防衛省の環境対策というと、あまり馴染みがないと感じる方や、イメージしづらいと感じる方が沢山いらっしゃると思いますが、実は、防衛省における環境対策への取り組みは、非常に重要であるため、今回のテーマにさせていただきました。

防衛省は、約25万人の隊員が所属しており、全国各地に施設が所

在し、車両、艦船、航空機などの装備を数多く保有し、運用が行われているため、実は政府の中の最大の温室効果ガス排出者となっています。

更に、政府は、2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロ、すなわち「2050年カーボンニュートラル」を目標として掲げているため、政府目標に対する防衛省の責任は非常に大きく、率先して環境対策に取り組む意義は高く最大限環境対策に取り組んでいく必要があります。

【パーソナリティー】

防衛省における環境対策は、非常に重要なものになっているのですね。

その中で、東北防衛局はどのような環境対策を行っているのでしょうか。

【尾花】

はい。東北防衛局は防衛省の組織ですが、陸海空各自衛隊のように、車両、艦船、航空機などの装備を運用はしていないものの、防衛省の一員として、環境対策に取り組んでいます。

その中で、私どもの所属する環境対策室では、省エネ法や政府目標である温室効果ガスの削減などの各種取り組みの職員への周知、取り組み状況の報告などの東北防衛局における環境対策の取り纏めや、自衛隊や在日米軍施設の運用などから生じる環境問題として、「PCB」の処分など関係機関との連絡調整を行っています。

【パーソナリティー】

「省エネ」や「温室効果ガスの削減」について、具体的には、どのようなことを実施していますか？

【兵藤】

はい。服装を軽装化するクールビズや、昼休みの消灯、退庁時のOA機器の電源OFFなど、職員1人1人ができる取り組みを職員に周知し、実践することで、環境への配慮に貢献しています。

また、東北防衛局における「グリーン購入法」に基づく、環境負荷の少ない物品の購入実績や、「環境配慮契約法」に基づく、環境に配

慮した事業者との契約実績を取り纏めて防衛本省に報告しています。

【パーソナリティー】

職員1人1人が、環境対策に取り組んでいるのですね。

「グリーン購入法」と「環境配慮契約法」という法律についてお話がありました。これらはどのような法律なんですか？

【兵藤】

はい。まず、「グリーン購入法」というのは、モノの効率的な利用や、リサイクルを進めることで、天然資源の消費を抑制する循環型社会を形成するために、国などの公的機関が、率先して、環境への負荷を減らす製品やサービスの利用を推進するなど持続的発展が可能な社会の構築を推進することを目指す法律です。この法律は、国などの各機関の取組に関するだけでなく、地方公共団体、事業者そして国民の責務などについても定めています。

次に、「環境配慮契約」というのは、製品やサービスを契約する際に、環境への負荷ができるだけ少なくなるような工夫をした契約です。この環境配慮契約を推進するために制定されたのが、「環境配慮契約法」です。この法律は、国などの公的機関が、契約を結ぶ際に、価格だけでなく、環境性能を含めて総合的に評価することとしており、企業による、環境保全の技術や知恵が、経済的にも報われるような、新しい経済社会を構築することを目指す法律になっています。

【パーソナリティー】

なるほど。よく分かりました。

先ほど、「^{びーしーびー}PCB」という、あまり聞き慣れない言葉がありました。これについても詳しく教えていただけますか？

【尾花】

はい。「PCB」とは、ポリ塩化ビフェニルの略称で、健康被害が指摘されている化学物質です。

「PCB」は、熱に強く、電気絶縁性が高いことから、変圧器や安定器などの電気機器に多く使用されてきましたが、現在は「PCB」を含む同機器の製造は中止されています。また、「PCB」を含む同

機器は、2027年3月31日までの処分が義務づけられています。

しかしながら、米軍施設の古い建物などでは、当時製造された機器が使用されているものがあり、建て替えの際、低濃度の「PCB」を含む同機器について、一定の要件の下で、法律に基づいた特別産業廃棄物としての処分及び届け出が必要となりますが、この手続きを環境対策室で行っています。

なお、低濃度「PCB」の処分などの手続きのためには、特別管理産業廃棄物管理責任者の資格が必要となります

私は課業終了後、部下に気づかれないよう、こつこつと勉強し、本年2月に当該国家資格を取得いたしました。

【兵藤】

室長、私も手続きを行えるよう、資格を取得したいです。

【尾花】

そうですね。応援しますので、頑張ってください。

【パーソナリティー】

環境対策室では、非常に重要なものに取り組んでおられるのですね。防衛省と環境対策の関係について、よく分かりました。

ところで、^{ひょうどう}兵藤さんは、この4月に採用されたとのことですが、これまで働いてみてどうでしたか？環境対策室の雰囲気や感想などを教えていただけますか？

【兵藤】

はい。私は今年の4月に入省し、東北防衛局で働いています。この4ヶ月は本当にあつという間でした。仕事も仕事以外も色々なことがありましたが、総じて楽しく充実した日々を送っています。

職場の雰囲気は、そうですね、一言で表すとすれば、「元気」だと感じます。個性にあふれたメンバーで、真面目ではありますが、笑いあいながら働いています。

今の働きがいについて、達成感・満足感がある瞬間は、自分自身のできる事が少しずつ増えていると感じるときです。先輩や上司から仕事をひとつひとつ教えてもらって、一生懸命覚えて、できることが

増えたと実感する瞬間が、最近増えているのかなと感じます。周りの方から見たら「まだまだ！」という方が多いと思いますが…。

実際、まだ一人では自信をもってできないことが多いので、これからもたくさん学んで、できることを増やしていきたいです。

【パーソナリティー】

^{ひょうどう}兵藤さんのお話をお聞きすると、楽しい職場なのかなと感じます

ね。本日は、防衛省における環境対策業務について、^{おばな}尾花室長と^{ひょうどう}兵藤さんにお話をお聞きしました。ありがとうございました。

【職員2名】

ありがとうございました。

【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞きの皆さまからご意見・ご感想を募集しております。お聞きのコミュニティ放送局までご連絡ください。